

「東京パラリンピックボランティア活動レポート」

佐藤絵美 長崎大学大学院

担当:自転車/プロトコル (富士スピードウェイ)

◆ ボランティアへの参加を志した理由

私が東京五輪のボランティアを志したのは、2020年夏季五輪の開催都市が東京に決定した高校生の時でした。東京での開催は約50年ぶりであり、自身がボランティアとして参加できるのは自分の人生の中でもう無いかもしれないというのが第一の理由でした。これほど大きな規模の世界大会の運営側に携わるという経験はそうそうできるものではなく、また、高校生の時点で大学院まで進むことを考えていたため、学生であれば参加も難しくないだろうというのも要因の1つでした。そのため、そのような機会を逃さないため、ボランティアの募集がいつかかるかというのはずっと心にあり、募集がかけられた後は迷いもなく応募を行いました。活動する期間に関しては、大学院1年の段階であればテスト期間に被る可能性が考えられたこと、パラリンピックに携わるということに興味が惹かれた点があります。

◆ 新型コロナウイルスによる延期を受けて

東京五輪開催予定の2020年に新型コロナウイルスが蔓延し、3月に延期が決定されましたが、翌年であればまだ学生であることもあり、参加の意思は変わりませんでした。しかし、コロナ禍は2021年まで続き、開催ギリギリまで先の読めない状況であったため、不安の募る日々でした。行動制限がなされている中、賛否両論ある東京五輪のボランティアに参加することは、胸を張って取り組むという訳にはいかず、福岡で行われたオリエンテーション及び共通研修には参加しましたが、静岡開催の会場別研修は参加を辞退しました。本番のボランティア参加に対しても、参加することは良くないことではないか、辞退することが正しい判断なのではないか、という気持ちもありましたが、またとない機会を逃したくないという思いの方が強く、開催されるのであればボランティアに参加しようという意思是曲げることができませんでした。幸いにも所属する大学によるワクチン接種が行われ、ボランティアに参加する2週間前には2回目の接種を完了することができたので、コロナ感染に対する不安は少し解消されました。

◆ ボランティア活動を通して

私は静岡県にある富士スピードウェイにて、8/31~9/3に開催されるパラリンピックの自転車競技のボランティアを行いました。当初の部署はEVS(観客サービス)でしたが、パラリンピックは無観客での開催となったため、代わりにプロトコルという部署に配属されました。プロトコルでの活動は主に、五輪関係者への対応であり、関係者の休憩室や出入り口付近にて関係者への案内等を行うものでした。そのため、組織委員会の会長である橋本聖子会長、オリンピックパラリンピック大臣である丸川珠代大臣といった著名な方々とお会いすることができました。一緒に活動した方々には

歳の離れた方も多かったです。大学生や社会人の方でも歳の近い方もおり、様々な方の普段どんな仕事をしているのか等の話を聞くこともできました。また、パラリンピックや競技内容に対する知識のある方もいたため、そこではじめて知ることも多くありました。多様性や困難に立ち向かう力等、パラリンピックに込められた独自の意義があることを知り、オリンピックとは異なる大会であることを感じました。慣れない仕事に上手く行動することができないこともありましたが、ボランティアに参加しなければ出会わなかったであろう人と知り合い、一緒に活動することができたことも含めて、貴重な経験となりました。